

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																							
東洋理容美容専門学校		昭和51年4月1日		柴入 裕一		〒260-0033 千葉県千葉市中央区春日2-17-12 (電話) 043-241-5185																							
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																							
学校法人東洋理容美容学園		昭和46年8月1日		柴入 裕一		〒260-0033 千葉県千葉市中央区春日2-17-12 (電話) 043-241-5185																							
分野	認定課程名	認定学科名				専門士	高度専門士																						
衛生	衛生専門課程	理容科				平成6年文部科学省 告示第84号																							
学科の目的	学校教育法及び理容師法、美容師法に基づき、理容師、美容師の育成に関する専門的な知識及び技術を修得させ、職業若しくは實際生活に必要な能力の育成と教養の向上を図ることを目的とする。																												
認定年月日	平成26年3月31日																												
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																						
2年	昼間	2010時間	780時間	0時間	1200時間	0時間	30時間																						
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)		専任教員数	兼任教員数	総教員数																							
80人	35人	0人		5人	17人	22人																							
学期制度	■1学期:4月1日～8月31日 ■2学期:9月1日～12月31日 ■3学期:1月1日～3月31日				成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学科及び実技試験結果 (100点満点評価、一部選択必修科目4段階評価)																							
長期休み	■学年始:4月1日～4月5日 ■夏季:7月26日～8月31日 ■冬季:12月26日～1月7日 ■学年末:3月26日～3月31日				卒業・進級 条件	・法定履修時間(2010時間) ・学科試験 ・実技試験																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 ・長期欠席 ・就職 など				課外活動	■課外活動の種類 ・ボランティア ・スポーツ大会、学園祭等の実行委員会 ■サークル活動: 無																							
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) 理容業界 ■就職指導内容 ・無料職業紹介所 ・個別面談 ■卒業生数 18 人 ■就職希望者数 18 人 ■就職者数 18 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 : (平成28年度卒業生に関する 平成29年5月1日時点の情報)				主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理容師</td> <td>②</td> <td>18人</td> <td>17人</td> </tr> <tr> <td>ヘアケアマイスター</td> <td>③</td> <td>10人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>日本メイクアップ3級</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>色彩検定3級</td> <td>③</td> <td>7人</td> <td>5人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 千葉県大会優勝など入賞者9名 関東大会入賞者2名 全国大会出場者4名				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	理容師	②	18人	17人	ヘアケアマイスター	③	10人	2人	日本メイクアップ3級	③	2人	2人	色彩検定3級	③	7人	5人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																										
理容師	②	18人	17人																										
ヘアケアマイスター	③	10人	2人																										
日本メイクアップ3級	③	2人	2人																										
色彩検定3級	③	7人	5人																										
中途退学 の現状	■中途退学者 1 名 ■中退率 2.4 % 平成28年4月1日時点において、在学者 41名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者 40名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学的主要原因 進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 クラス担任制による指導、転課程																												
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 入学金免除(4種類)、授業料免除(2種類)、奨学金(4種類) ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																												
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																												
当該学科の ホームページ URL	http://www.tovoribi.ac.jp																												

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
理容業界における人材の専門性に関する動向や理容業の成長に伴い新たに必要となる実務に関する知識・技術・技能について、企業等からの要請を十分にいかしつつ実践的な職業教育が主体的に実施できるように、授業内容・方法の改善・工夫を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
校長の諮問機関として、教職員及び企業等の役員又は職員その他必要な委員から構成される教育課程編成委員会を設置し、委員会の意見を活用して教育課程の編成を行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿 平成29年10月26日現在

名前	所属	任期	種別
柴入 裕一	東洋理容美容専門学校	平成29年10月1日～平成31年9月30日(2年)	②
高橋 さゆり	東洋理容美容専門学校	平成29年10月1日～平成31年9月30日(2年)	②
小西 未来子	東洋理容美容専門学校	平成29年10月1日～平成31年9月30日(2年)	②
増田 稔	千葉県理容生活衛生同業組合	平成29年10月1日～平成31年9月30日(2年)	①
野村 敏夫	千葉県美容業生活衛生同業組合	平成29年10月1日～平成31年9月30日(2年)	①
茂木 宏太	社団法人一生美容に恋する会	平成29年10月1日～平成31年9月30日(2年)	③
大峰 浩喜	社団法人一生美容に恋する会	平成29年10月1日～平成31年9月30日(2年)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
年2回以上開催する。10月、2月を定期開催時期とし、その他必要に応じて開催する。

(開催日時)
第1回 平成29年10月10日 13:00～15:00
第2回 平成30年2月20日 13:00～15:00 予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
「アクティブラーニング導入」を今年度のテーマにしている。教員研修を行い、実習授業の効率的教授法を検討する。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
理容実習において、より実践的な教育を目的として、理容所で実務実習を行う。管理理容師の資格を有し、適切な指導監督ができる理容師が、基礎的な技術に習熟し、状況に応じて応用できる基礎的能力を身につけることを目標に指導する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
授業科目の担当教員と受入企業の担当者が実習の実施前に打合せを行い、実習内容について確認をするとともに、生徒から担当者へ企業の諸規定を確認する。実習期間中は、担当教員が受入店舗へ連絡し、学習状況の確認を行うとともに、情報交換を行う。実習終了時には、実習担当者による生徒の実務記録に評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
理容実習 (実務実習)	理容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するため、基礎的操作を確実に身に付けるとともに、これらの基本操作を適宜組み合わせさせて完成させる技術を習得する。 理容所における衛生管理の重要性を認識させ、器具の消毒などの適切な実施方法を身に付ける。 個々の客の要望に応じた理容技術を確実に提供できるよう総合的な技術の基礎を身に付ける。	THE BARBAR、株式会社Toys R's hair、有限会社サンワイズ、ヘアサロン髪ing、STEADY hair graphics など 18施設(理容所)

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

理容における実務を教育内容や方法に反映した教育活動を実践するため、企業と連携して、理容における実務に関する知識、技術及び技能並びに、授業及び学生に対する指導力等の修得・向上を目的とする研修等を計画的に実施する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・フォトシューティング(H28. 6.14)
- ・前髪カット(H28. 6.20)
- ・シザー知識(H28. 6.24)
- ・進化する社会「これからのメンズとは」(H28.8.4)
- ・江戸時代の古典結髪(H28.8.4)
- ・アップスタイル(H28.10.7)
- ・メイク授業の進め方(H29.2.10)
- ・メイクセミナー(H29.2. 22)

② 指導力の修得・向上のための研修等

- ・実習提携サロンとの情報交換(H28. 4.13)
- ・メンタルヘルス研修「命と幸福」(H28. 5.27)
- ・教育力「立派な変人たれ」(H28. 8.4)
- ・教育心理学研修(H28. 8.17～24)
- ・教育技術研修(H28. 8.24)
- ・教育力「チャレンジ」(H28. 10.8)
- ・就職先サロンとの情報交換(H28. 11.29)

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・公益社団法人日本理容美容教育センター主催研修会
- ・関東地区理容師美容師養成施設教職員研修協議会主催研修会
- ・一般社団法人一生美容に恋する会依頼研修
- ・その他必要と思われる研修

② 指導力の修得・向上のための研修等

- ・千葉県専修学校各種学校協会主催新任教員研修会
- ・公益社団法人日本理容美容教育センター主催研修会
- ・関東地区理容師美容師養成施設教職員研修協議会主催研修会
- ・一般社団法人一生美容に恋する会依頼研修
- ・その他必要と思われる研修

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

各種の資料の検証や、学校の諸活動の観察等を通じて、当該年度の学校が行った自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の方策について評価する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	(11) 国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価結果を自己評価の改善方策の検討において活用し、次年度の重点目標の設定や具体的取組の改善を図りたい。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年10月26日現在

名前	所属	任期	種別
齊藤 貴三	株式会社マルサン	平成29年10月1日～平成31年9月30日(2年)	企業等委員
内田 美貴	株式会社デイバイデイ	平成29年10月1日～平成31年9月30日(2年)	企業等委員
板垣 守	東洋理容美容専門学校後援会	平成29年10月1日～平成31年9月30日(2年)	卒業生
仲川 伸雄	東洋理美同窓会	平成29年10月1日～平成31年9月30日(2年)	PTA

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
 (ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())
 URL: http://www.toyoribi.ac.jp/wp-content/themes/toyoribi/pdf/joho_9b.pdf

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
 基本的な教育組織等に関する情報のほか、教育情報の積極的な公表を通じて、教育の質の確保・向上を図る。また、具体的な教育情報を分かりやすく公表し、本校の特色ある教育活動を積極的に発信する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	(1)学校の概要
(2)各学科等の教育	(2)各学科等の教育
(3)教職員	(3)教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	(4)キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	(5)様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	(6)学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	(7)学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	(8)学校の財務
(9)学校評価	(9)学校評価
(10)国際連携の状況	なし
(11)その他	(10)その他

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL: http://www.toyoribi.ac.jp/about_release/

授業科目等の概要

(衛生専門課程理容学科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			関係法規・制度	理容業に関する法律や制度の意義、内容を学び、理容師として働く際の社会的責任や心構えを養います。	1 ① 2 ① ③	30	1	○			○		○		
○			衛生管理	感染症や衛生管理の知識を習得し、公衆衛生の重要性を理解するとともに、実際に使用する器具の消毒方法を学びます。	1 通 2 通	90	3	○			○		○	○	
○			理容保健	皮膚や毛髪、人体の構造と機能などに関する専門知識を、実際の理容技術に関連させて理解していきます。	1 通 2 通	120	4	○			○		○	○	
○			理容の物理・化学	理容機器や化粧品、薬剤などを正しく安全に取り扱うために必要な物理・化学の知識を学習します。	1 通 2 通	90	3	○			○		○	○	
○			理容文化論	理容の歴史やファッションの変遷を学び、デザインや色彩学などを通じて美的センスと豊かな表現力を養います。	1 通 2 通	90	3	○			○		○		
○			理容技術理論	理容器具の種類や正しい使用方法を理解し、実践の作業に即して理容の技術理論を学びます。	1 通 2 通	120	4	○			○		○		
○			理容運営管理	経営管理の理論や接客など、サロン経営に必要な専門知識を学び、これらを実践するための力を身につけます。	1 通 2 通	60	2	○			○		○		
○			理容実習	理論をふまえた上で、カット、シャンプー、シェービング、ワインディングなど基礎から応用まで幅広く技術を身につけます。	1 通 2 通	810	27			○	○	△	○	○	
	○		芸術	優れた芸術作品に親しみ、鑑賞する能力を身につけ、生涯にわたって芸術を愛好する心情を育て、豊かな情操を養います。	1 通	30	1	○			○			○	
	○		外国語	英語の基礎的会話能力を身につけ、語学学習を通じて外国の文化、生活習慣などに関する理解を深めます。	1 通	30	1	○			○			○	
	○		保健体育	各種の運動の合理的な実践を通して、運動機能を高め、健やかな心身の形成、協調性のかん養を図ります	1 ① ③ 2 ① ③	30	1			○	○		○		

○	毛髪科学	毛髪の構造、ヘアケアについての知識を深めます。毛髪技能検定取得を目指します。	1 ② ③ 2 ①	60	2	○			○		○		
○	カラーリング	染毛剤の種類や原理、カラーリングの効用を学び、実践を通して技術を身につけます。	1 通 2 通	60	2				○	○		○	○
○	接客法	理容業における接客の意義と技術について具体的事例を挙げながら学びます。	1 通 2 通	60	2	○			○				○
○	トータル・ケア	ネイルケア、エステティック、ヘッドスパなどトータルなケア技術を習得します。	1 ② ③ 2 ②	90	3				○	○		○	○
○	総合技術	必修科目において習得した基礎技術を基に、さらに発展させた高度な技術を身につけます。	1 ③ 2 通	150	5				○	○		○	○
○	国家試験対策	カット、シェービング、セットの国家試験課題をマスターし、すべて技術が国家試験の手順通りに衛生的に行えるようにします。	2 ② ③	90	3				○	○		○	
合計				17 科目		2010 単位時間 (67 単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
生徒の平素の成績を評価し、かつ学年末において試験の成績及び卒業資格認定のための課題作業等により認定する	1 学年の学期区分	3 期	
	1 学期の授業期間	12 週	

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。